



畠中 勝身

防災行政無線の活用

問 防災行政無線は、市町村が整備する専用の通信システムで、緊急地震速報や避難指示、また熱中症などを伝えるものであるが、この行政無線の活用方法を問う。

答 当該システムは、弾道ミサイル情報や緊急地震速報など、時間的余裕がない事態に備えて、緊急情報をいち早く住民に知らせるために設置している。市町村によっては、熱中症予防を呼びかける事例もあるが、本町では山林や谷筋が多く音声での呼びかけはしていない。

問 17か所で、本町として十分と考えているのか。

答 十分ではないが、スマートフォンにエリアメールを送ることで、即時的な運用も含め、できるだけ速く住民に情報が伝達できるよう努めている。

問 計画をもって、防災行政無線を必要箇所に増設できないのか問う。

答 いろんな方法により周知するというのが一番かと思うが、広い面積の割に人口が少ないというわが町にとって、必要最小限度の通知という形になっている。家の中ならテレビのテロップやハザードマップを活用し、複合的に周知するのが良い方法と考える。

問 各地区で防災行政無線が聞こえないという声を聞く。また、雨戸や窓を閉めるケースが出てくるがどう対処するのか。

答 様々な状況、天候に全てＪアラートだけで対応できると考えておらず、エリアメールや本町のLINEを使い啓発に努めている。

問 能勢町では、何台の防災行政無線を設置しているのか。

答 17か所である。



環境教育常任委員会報告

委員長 森田 則子

環境教育常任委員会では7月22日の協議において、今期の調査研究の課題を以下の通り設定した。

【環境関係】農地の振興と保全及び活用について

- ① 有害鳥獣害対策
- ② 今後の農地の在り方
- ③ 物産センターの今後の在り方
- ④ 企業誘致に関する基本的情報の共有

【教育関係】生涯学習センターの移転について

これらの課題について、担当課との懇談会を 10月3日・27日 に開催した。

11月19日に委員会を開催して協議を進めた。

その結果、重点的に取り組むテーマとして「農地の振興と保全及び活用について」を選定することとした。

- また、
- ・物産センターの今後の在り方
 - ・企業誘致の基本的情報の共有
 - ・生涯学習センターの移転

については、全員協議会等での説明を求めるとともに、委員会としても説明の場を設けることとした。